

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400375		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	かがやきホーム新湯野		
所在地	福山市神辺町大字新湯野19番地1		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成25年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの自尊心やプライドを傷つけないように、どんな状態になられても人としての尊厳を守り、その人らしく生活が出来、最後までかがやいた人生を送って頂けるケアをしている。天然の木造、土壁の和風造りで吹き抜け天窓のある平屋建てで、落ち着いた雰囲気の中で生活が出来、各居室にはトイレと洗面所を設置しているので、他の入居者に気兼ねなく自室で排泄、処理が出来ており、いつも清潔で快適に過ごして頂いている。家族との信頼関係もあり、また地域の有志やボランティア、保育所との交流も盛んで、行事等にも気持ち良く協力して下さる。医療面でも、主治医との信頼関係が出来ており、重度化に成られても最期まで安心して穏やかに過ごせるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木のぬくもりがあり、ゆったりとした事業所内は落ち着いて生活でき、安堵感がある。ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行うことや、日ラジオ体操やリハビリ体操を日課とすることで利用者の刺激ある生活・機能維持に努めている。また、地域の方の好意でイモ掘りをされる等、地域との関わりについても積極的に関わる取組みをされ、良好な関係が築かれている。運営者、管理者、職員が隔たりなく日々利用者に接し、利用者を家族のように思い、更に尊厳を大切に謙虚な姿勢で接する事を心掛けている。今後も益々発展され地域に更に密着した事業所となるであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝入居者と一緒に唱和している。入居者と唱和する事で、毎日理念を認知し、共有して実践に繋げている。	理念を毎日唱和する事や全員参加のミーティングに於いて確認する機会がある。職員個々利用者に関わる際意識して実践するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の下校時の見守り隊に参加して、小学生や地域の老人会、子供会の方との交流を行い、触れ合いを大切にしている。	地域の見守り隊に参加する等、地域活動に積極的に関わりをもち、情報を得ることや地域住民のアドバイスを頂き更に交流が深まる努力をされている。利用者と共にイモ掘りや保育所の行事等に参加し地域住民とふれあう機会を持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長がキャラバンメイトや見守り隊インストラクターの養成講座を受けており、地域の人々や老人会、民生委員の役員の方々、入居者家族にも相談等を受け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の運営推進会議に入居者家族や民生委員、老人会長、包括支援センター、市職員等の参加で、入居者の状況や支援、行事等の報告をしている。会議の議題や課題、協力等を朝夕の申し送りに報告してサービスに活かしている。	2ヶ月に1回定期的に開催し状況報告や議題に対し、要望や改善点、アドバイス等活発な意見を得、サービス向上に活かしている。また、感染症等の勉強会や年1回自己評価の内容等も報告し毎回有意義な会議となる様取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの情報をメールで受信している。運営推進会議に参加して頂き、ホームの取り組みやサービス内容、困り事等を伝えており、その都度アドバイスが頂ける関係作りが出来ている。	メールにより情報を得ることや、運営推進会議に毎回出席されているのでその際アドバイスを頂くことも多い。包括との連携も取れており、サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は7:00から20:00まで、玄関内戸は、9:00から17:00までは鍵をかけないで、自由に出入りが出来る。危険が伴い切迫性の場合は家族に連絡して説明を行い、同意を得ることにするが、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について外部研修に出席し、ミーティングや申し送りにて情報を共有している。利用者の行動を把握し、その方にとって最良の方法を考え、安全確保の工夫をした方法で回避している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演会や研修等に参加して、研修したスタッフは朝夕の申し送りで報告したり、虐待等の情報が入った時等も申し送りで報告して、全員虐待防止の意識を高め、しないケアに取り組み、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加して学び、制度がある事を伝え、必要な方への相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問等を尋ねて、十分に説明、意見を聞き、その都度不安等を持たれないよう傾聴している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者家族や外部の意見、要望を聞ける機会を設け、会議で出た意見等を朝夕の申し送りに提案して運営に活かしている。	運営推進会議に家族が交替して出席されているのでまんべんなく意見を出せる機会がある。全般的に訪問も多く、その都度状態を伝える中でも聞き取りそれらの意見は職員に周知し検討し、個々に対応すると共に日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートを活用したり、代表、ホーム長が個人的に職員との聴く機会を作り、意見等を反映させている。	申し送りやミーティング時職員の意見を聞き取り、日々の気づきはその都度ホーム長に伝えている。運営者が個別に聞く機会もあり、職員の思いや意見に耳を傾け、働きやすい環境となるような配慮をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況等を把握し評価しており、各自が向上心を持って働ける条件や職場環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量等を把握しており、一人ひとりに合った研修を受ける機会を設けており、現場で発揮できるようトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークで研修等の案内があり、参加している。意見交換等を参考にして、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後、連絡を密に行い、一人ひとりに耳を傾けながら、何でも話せる雰囲気作りや、安心して生活出来る信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることや不安、要望等何でも言える、聴ける雰囲気作りに心掛けながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の要望を傾聴して、本人が必要としているのを見極めて、要望に沿った支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯畳みや調理の下ごしらえ、お盆拭き、掃除等出来ることを見つけて、受身だけにならないよう一緒に行うことで、役に立っていると感じて頂きながら、共に生活をする関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来て頂けるように雰囲気作りに努めており、面会時には一緒にお茶やレクリエーションを行い、行事やお誕生日にも参加して頂き、家族との絆を大切に、一緒に本人を支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるように雰囲気作りに努めており、面会時には一緒にお茶を飲んだり、家族や親戚等と馴染みの場所に出掛けられる支援を行っている。	かがやき便りに利用者が一言書き記し、家族との自然な関わりを継続されている。友人、知人の訪問もある。馴染みのある場所へ外出したり、家族と共に外出される方もあり、閉塞的にならないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が一緒に行える事を見つけ、レクリエーションに取り入れて、職員も参加して、入居者との間に入り、入居者同士の関わりを保ち、孤立しないような支援が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院等で退所されてもお見舞いに行ったり、近況報告を頂いたりして、継続的に支援するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうして欲しいか、何をしたいか等話を聴く機会を作っている。困難な人には家族に尋ねながら、本人の立場に立って考えて支援をしている。	日頃コミュニケーションをとる中や生活歴からの情報を参考に思いを察し、実現出来ることは職員間で話し合い行っている。利用者の希望として食事に関する事や外出について等の希望が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生活環境等を本人や家族に尋ねたり、利用されていた事業所等にも情報を提供して頂き、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで身体状況や、顔色や表情、食欲等で少しの異変にもでも気付ける職員同士の観察力等が培われている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕の申し送りやミーティングで職員の意見や生活面での気づき等を出しており、面会時には家族にも聞く機会を持ち、本人が楽しく、安心して暮らせるよう現状に沿って出来る介護計画を立てている。	日々の気づきを担当者会議にて意見を出し定期的及び随時見直しを行っている。家族の意向を訪問した際聞き取り、利用者の希望をくみ取った個々の現状を細く把握した計画となっている。完成した計画は申し送りで周知徹底しケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護中の本人のしぐさや言葉、気づき、排泄等日々の様子を時間と一緒に毎日の様子等を細かく個人記録に記入して、朝夕の申し送りや連絡ノートも活用して職員間で情報を共有しており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化している状況を把握しながら、その時々状態変化に応じて、本人にとって既存のサービスが必要かなど、その時々柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや、老人会、保育所等の訪問や参加で幅広く交流が出来ている。地域の一人として認められて、地域の人々に支えられ、見守られながら楽しい生活が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望されるかかりつけの医師をお願いしている。何でも相談が出来、アドバイスが頂け、病症によっては往診や電話対応でもして頂ける関係作りが出来ている。	利用者希望のかかりつけ医となり、受診や必要に応じて往診の支援がある。連携も取れ安心した体制となり、家族への情報伝達もされ、医療面の安心度が高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタルチェックで毎日の変化をチェックし、職員は朝夕の申し送りで一人ひとりの体調を把握している。いつもと違う症状がある時は看護師に伝え、早期発見、早期対応の支援が行われている。状態に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に洗濯物を取りに行き、本人の状態を看護師等に尋ねて、早い退院に向けて情報交換を行うようにしている。その為にも、日々の受診時には主治医や看護師とのコミュニケーションを大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した時、延命治療、終末期のあり方等を尋ねている。重度化した時は早めに主治医と家族、ホームとのカンファレンスを行い、ホームで看取りをするに当たり、主治医や看護師の協力の下、ホームで出来る事、家族で出来る事等を話し合い、共に支えていく支援を行っている。	利用開始時に終末期について詳細に家族の意向を聞き、事業所で出来るケアについても事細かく伝えている。医療機関も連携が取れ職員間に於いても情報共有がされ統一したケアとなるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを元に、いざと言う時にはあわてず冷静に対応が出来る様、看護師が常日頃話しており、実践力を身につける様に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や家族参加で何度も一緒に避難訓練を行っているため、ホーム内の構造や避難方法を把握されており、協力体制が出来ている。ホーム内には避難経路を掲示して、救助者への的確な指示が与えられるように訓練している。	年2回訓練を実施し、参加者の家族や地域の方からの提案を真摯に受け止め、訓練の内容に反映されている。災害全般についての策を検討はされているが、課題を踏まえて次に繋げる予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉声掛けを行い、プライドを傷付けない、プライバシーを損ねないような対応を行っている。	基本的には利用者を尊重し個々に合った口調で親近感の持てる言葉かけとなっている。毎朝接遇に関しての内容に触れ、させていただいているという謙虚な姿勢に心掛けて接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや望みが表せるようその都度伺いながら、本人の気持ちを大切に、自分で決めて出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでなく、声掛けで本人のペースを守りながら、思いを傾聴して、希望に添って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や受診等に出掛ける時服を着替えたり、男性は髭剃りのお手伝いをして身だしなみを整える支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事形態で、食べて頂いている。食べたいものを尋ねたり、皮むぎ、味見をして頂いたり、食べ終わったら食器を配膳台に持って行って頂いたり、お盆拭き、テーブル拭き等後片付けのお手伝いをして下さっている。	出来る方や意欲がある方には下膳や下ごしらえをしてもらい、食事のプロセスを大切にしている。献立は好みに合わせ食べやすく工夫し美味しく食べて頂くよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に、食事、水分量、個人記録にも食事の摂取を記入して、何を残された等も記入しており、嚥下機能低下で咽のある人にはトロミをつけて、一日の摂取が確保出来る様な支援が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来るだけご自分でして頂き、出来ないところをお手伝いしている。うがいやお口を開けられない人はハミングッドで口腔ケアを行っている。義歯の人は夕食後洗浄液に浸けて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンや尿量を把握しており、居室にトイレがあるので、歩行出来ない人もトイレでの排泄を促すよう誘導している。夜間も歩行出来る人はトイレで排泄して頂き、パッド等の軽減に努めている。	居室に各々トイレがあり、プライバシーも確保できゆっくりあせらず安心して出来る。個々のパターンを把握して誘導し、自然な排泄となりパット軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜やきのこ類、海藻類等を取り入れたメニューや一日の水分摂取は1300ccを目標にしており、ラジオ体操やリハビリ体操、歩行、レクリエーション等行い、腸の蠕動運動を誘発し、水分も分割摂取して便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はあらかじめ決めているが、入浴日でなくても入浴希望があれば入って頂いたり、拒否の人は時間をずらしたり、タイミングをみて入浴している。湯加減も本人の希望に添って温度調整している。	入浴は個々の希望を優先して時間や湯温等も希望を把握している。清潔の保持に努めているが出来るだけ無理強いをせず、声かけの工夫をし楽しく入浴出来る様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて休んで頂き、体力温存に努めている。ベッドのマット干し、布団干し、シーツ交換を行い、いつも気持ちよく寝られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人ひとりの薬の効用や副作用等が分かるように、個人記録に処方箋を付けている。服薬時には名前を読んで何時の薬か確認して服用している。飲み込めなかったかの確認もしている。服薬で変化があった場合は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役立っていると感じて頂ける様、一人ひとりの役割を決めている。毎日のレクリエーションでは楽しんで頂ける様嗜好を凝らして、楽しい毎日が過ごせて気分転換が図れるよう支援が行われている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一緒に買い物に行ったり、家族も買い物やお墓参り、親戚の家等外出の機会を作って協力して下さっている。体調を見て、気分転換のためにドライブに出掛けている。	買い物やドライブ、馴染み深い観音様へしばしば出かけ喜んでもらっている。又、お墓参りや親戚に家族と共に行かれたり家族の協力を得ながら愉しみの支援に努めている。日常的には広い敷地内を散歩し、気分転換してもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金のことばかり気にされて、持つことの大切さは分かっているが、仕舞い忘れて物盗られになると、他の入居者や、職員への不信感が出て、ホームでの楽しい生活が出来なくなるので、家族との話し合いで所持して頂かない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事があると言われた時は電話を掛けてお話をしたり、季節ごとの行事には、折り紙を貼って案内の手紙を書いたり、年賀状等やり取りが出来する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けで天窓のあり、高い天井で明るく開放的で、木造、土壁で不快な臭いも無く、廊下にはガラス瓦で自然の光が入り、温もりのある建物である。玄関前には季節とりどりのお花や夏にはゴーヤを植え緑のカーテンを作って、季節感を味わって楽しみながら過ごして頂いている。	事業所内は全体的に広く、随所にぬくもりの感じられる仕様となっている。ゆったりとした廊下は幅も広く、外に出れない時期にも歩行練習も十分可能な距離がある。季節を感じてもらう為の配慮をされ、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寝転んだり、足を投げ出せる和室や、凌ぎ易い季節には日向ぼっこが出来するウッドデッキがあり、好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや、馴染みの物、家族の写真、押し花教室での作品等、居心地良く過ごせる配慮を行っている。居室にトイレと洗面所を設置しているので、他の人に遠慮なく排泄出来る配慮もしている。	落ち着いて過ごせる雰囲気であり、利用者の作品や写真等飾られ、利用者が使い易い配置となっている。部屋それぞれにトイレと洗面所がありゆっくりと安心して使用できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や老人カー使用や廊下や居室の手摺りを利用して安全かつ安心して歩行出来ている。歩行出来なくても車椅子での自走で自由に移動出来ている。居室には花や木の名前を取り入れて分かりやすくしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	57	毎日リクリエーションやリハビリ体操おやつ、食事時間等を一緒に行ってゆったりとした時間を過ごしている。	午前中のリクリエーション時間を15分から20分取り入れる。	午前中はラジオ体操、歩行訓練を行っているが、10時30分からは昼食まで時間があるので紙芝居やトランプカルタ取り等ゆったり過ごせるレクを行う。	2週間
2	60	戸外への散歩等が利用者の三分の一くらいしか実行出来ていない。	家族の協力を得て、面会時には外出の支援を行う。	歩行困難な利用者は車いすで近隣散歩を歩行できる人と行う。 月1回ドライブを継続して行う。	2週間
3	66	職員はいきいきと働けているがもっと良い関係作りに心掛ける。	職員間の意見を否定せず、受容し共感しあえる関係作り。	相手の意見を否定せず、お互いの意見を出し合い、問題点を他の職員にも報告、連絡相談を行って全員が共有できるよう朝・夕の申し送りを活用する。	1週間
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。